

《She is beautiful》

彫刻による醜の美

～マチエールによるモチーフの再現の追究～

《She is beautiful》

A Representation of the Beauty in Ugliness by sculpture

～A study of the representation of an old woman's skin by the matiere of clay～

島内 美佳

Mika SHIMAUCHI

崇城大学大学院芸術研究科美術専攻

Division of Fine Art, Graduate school of Art, Sojo University



《She is beautiful》 FRP 樹脂 高さ196 cm×幅130 cm×奥行き90 cm

私の制作論は、私がある出来事をきっかけに、一般的に「美」と対置される「醜」の中にある美しさに興味を持ち、それを彫刻として表現できないかと試作した研究作品《She is beautiful》に関して論じたものである。私は、何が醜で何が美であり、また、美学や美術史において「醜」はどのように捉えられているのか、さらには、自然の産物には醜はないと考える私と同じ考えの作家がいるのかいないのかを、本制作論の執筆を通して明らかにするよう努めた。全体は3章からなっており、各章の展開は以下の通りである。

第1章では、私が修了研究作品の主題を決定するに至った経緯について述べた。1節ではモチーフの老女について、また、2節では副題となっている皮膚のマチエールの研究に絞った動機を説明し、3節では私の過去の作例を挙げながら、私が考える醜について説明を行った。そして、先行の作家や思想家の見解と比較しながら、自身の見解の裏づけを行った。

続いて、第2章では、研究作品の参考となった先行の彫刻家の作例を挙げて、醜に対する考え方や捉え方を考察した。まず、1節では、老女をモチーフにした先行の作例、2節ではマチエールを生かした先行の作例を挙げ、それらがいかに、形態的、思想的な面で私に影響を与えたかを具体的に説明した。

次いで、第3章では、修了研究作品である《She is beautiful》の制作過程について説明した。まず、1節と2節で修了研究作品の概要を述べ、3節から実際の修了研究作品の作業工程の説明に入った。4節では、原形制作に水粘土を使用した動機を述べ、続いて5節、6節、7節で原形制作について述べた。8節では制作した粘土原形を石膏で型取りする工程を述べ、10節から11節においては、石膏型から最終素材であるFRP樹脂に置き換える工程について述べた。

そして最後に、修了研究作品《She is beautiful》を制作することによって得た成果と反省について述べ、本制作論を終了した。